

農業の在り方を考える契機に

農文協の『季刊地域』第63号に、今後の農業の在り方を考えるきっかけとなる記事と写真が掲載されました。

これらは佐渡市の環境アドバイザー、服部謙次さんを講師に迎えて7月21日、吉川区の山間地の無農薬田んぼで行われた生きもの調査をまとめたものです。タイトルは「棚田の生きものに会いに親子が大勢やってきた」。6ページの長さの記事と写真には、田んぼの中で生きもの調査をする子どもたちの真剣な表情を撮った写真がありました。また、田んぼにいた生きものをめぐる服部さんと子どもたちのやりとりがそのまま記録されています。

当日、私も一部を見ていたのですが、「トノサマガエルは足に吸盤がないから、水路がコンクリートだと登れない」「おー、詳しいね」などといったやりとりに感心したものです。私がいなくなってしまう服部謙次さんと子どもたちのやりとりでは、田んぼの虫たちを「害虫」「益虫」「ただの虫」のグループ分けした時の様子がとても面白く書かれていて、勉強になりました。そして、田んぼのなかには6600種もの生きものがいるとの記述もあって、びっくりでした。



今回、掲載されたものは田んぼの生きもの調査が本題ですが、私は、それだけではないと思いました。上越市が作った食料農業農村基本条例にもある有機農業を推進し、環境保全型農業を本格的にする契機にしなければならないと感じた次第です。

市展を観てきました

芸術の秋、文化の秋です。8日、今年度の市展を観てきました。

絵画部門では、同級生や友人などが出展した風景画などの作品に目が行きました。写真の部で市展賞に入った柿崎区在住の井ノ山広幸さんのコウノトリの作品を観ていたら、Yさんが声をかけてくださいました。

絵画であれ写真であれ、市展の作品は身近で、勉強になるものがたくさんあります。



【シロバナサクラタデ】（再掲）タデ科の多年草。漢字で「白花桜蓼」と書きます。初めてこの花を見たとき、きれいだなあと思いました。秋の野の花の女王と言ってもいいかも知れません。桜の花そっくりで、朝日を浴びるとキラキラします。花期は8月から11月です。花言葉は「優雅な清楚さ」「幸運」。写真は10日、吉川区小苗代にて撮影。

ぼくらのアール・ブリュット

無印良品直江津店で開催されていた「ぼくらのアール・ブリュット」を観てきました。この作品展は今回、11人の作家さんが出展していました。



丸とクネクネ模様を多用する、必ず猫がいるなど個性あふれる作品が多かったですね。

イラストは佐藤葉月さんを描きました。



10日頃から吉川区のペヤは大潟区にいたことが多くなっています。写真は14日朝、大潟区の農道にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2224 2025.10.19

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七一回 弟の三回忌法要

大湯区四ツ屋浜の橋爪家に着いたのは午前十時半頃でした。居間に入った途端、「おおっ」と声を出しそうになりました。長椅子の上に六人の子どもたちがこぼれ落ちそうになりながら座っていたのです。

これだけの子どもたちが居間にいるだけで活気がありますが、長椅子の上でかたまって遊んでいる姿を見ると、何か「幸せのかたまり」のように見えます。二年前の一〇月に突然亡くなった弟にとって、こうした孫の姿は元気に頑張るエネルギーになっていたに相違ありません。

午前十一時、法要開始。最賢寺住職の金子さんが小さな仏壇の前でお経を読んでもうさいました。時間は三〇分くらいだったでしょうか。お経はそう長いとは思わなかったのですが、小さな子どもたちにとってはやはり長かったでしょう。我慢しきれなくなった一人が途中で、「終わって？」と言うと、金子さんは微笑んでお経を続けられました。

お経が終わってから金子さんが七、八分話をしてくださいました。一般的な法話ではなく、亡き弟との思い出話でした。

たしか「高校生の広場」みたいな名前だったと思いますが、五〇年ほど前、上越地域の高校生の交流の場があって、弟は後に連れ合いとなった加代子さんとともに参加していました。そこで当時教職に就いておられた金子さんが弟と出会ったのでした。弟は参加するにあたって五〇〇バイクで駆けつけていたとのことでした。そこまでは私もこれまである程度聞いていました。

その後の話です、私が初めて聞いたことが出てきたのは……。成人して弟たちが結婚を決めた時に、仲人を金子さんをお願いしたことがあったというのです。そのことは全く知りませんでしたので、私は最初から弟夫婦の仲人さんは吉川区のＴさん夫婦だと思っていました。金子さんは結婚式と

お連れ合いの出産が重なりそうだというところから断られたそうですが、その際、弟が、「それなら葬式の方、お願いします」と言ったとのことでした。これには驚きました。弟は半分冗談で言ったのでしょうが、現実はその通りになったからです。

お寺さんが帰られてから、身内だけで食事会をしました。出されたものは「弁当」です。と言っても、ふたを開けて見たら、中は十二に仕切られていて、そこに天ぷら、卵焼き、焼き魚、煮物、ベーコンなどが入っています。とてもきれいで、豪華でした。左下の小さな仕切りに炊き込みご飯がちょびっと入っていました。加代子さんが気をつかって、「ご飯が足りなかったら言うてね」とみんなに声をかけていました。が、お代わりするものは一人もいませんでした。みんな腹一杯になったからです。

食事会が終わってからは子どもたちが待ちに待った時間です。遺影の前で六人が再び遊び始めました。ジャンケンゲームがとてもしそうでしたので、私も仲間になってもらいました。「最初はグー、ジャンケンポン」と言って、私が出すのは必ず「グー」、運良く「パー」がなければ残ります。でも今回も私は敗退しました。

インタビュースーツも着ました。これは私の発想です。子どもたちの前に紙に包んだ箸を差し出し、「ハイ、インタビュースーツ。おじいちゃんはどうな人でしたか」とやったら、最初は体をくねらせ、答えてくれませんでした。そのうち、子どもたちが乗ってきて、「仕事が上手かった」などと言ったのです。これには大人たちが、「よく見ているねえ」と感心していました。

弟が亡くなった二年前、まだ一歳になったばかりの弟の孫は現在、三歳です。弟のことですから、生きていれば、「高い、高い」と持ち上げて、「重たくなったな」と笑顔を見せてくれたでしょう。

月影芸能祭で歌も

12日の第18回月影芸能祭。私も来賓として挨拶し、歌も歌いました。

トップは地元の伝統芸能として雅楽を守り続けている皆さんの演奏でした。新たな楽器も加わっての演奏、新鮮でした。地元、蒲川原区の音楽グループの歌も素敵でした。

私は歌謡部門の一番最初に、「上を向いて歩こう」を歌いました。なんとか歌うことができました。イラストは福井さんなど地元の音楽グループの演奏風景を描きました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月8日(水)	10月15日(水)
上越消防署	0.053	0.053
上越南消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.053	0.050
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.053	0.053
名立分遣所	0.060	0.057
高士分遣所	0.057	0.050

退職校長会研修でコウノトリの観察報告

12日に行われた頸北地域退職校長会の研修会で、コウノトリの観察報告をさせていただきました。

参加者の半分以上は私や子どもたちがお世話になった先生です。学校の子どもたちと同じく、「おおー」とか「おー、すごい」などと言って、賑やかでした。

報告ではここ数年の動きやコウノトリの観察で気づいたことなどを中心に語りました。私も楽しみなが話をすることができました。最後は『コウノトリさん、ありがとね』を聴いていただきました。

